

会 議 要 旨 (全文録)

会 議 の 名 称	印西地区環境整備事業組合 印西地区ごみ処理基本計画検討委員会 第5回会議
開 催 日 時	平成30年9月9日(日)午後2時00分開会
開 催 場 所	印西地区環境整備事業組合 3階 大会議室
議長(委員長) 氏 名	大迫 政浩 (国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター長)
出席者(委員) 氏名(人数) 敬略称、順不同	鬼沢 良子(NPO法人 持続可能な社会を作る元気ネット事務局長) 津島 孝彦 小熊 清 五十君 みつる 大家 茂樹 田沼 育男 鹿目 修(印西市廃棄物減量等推進審議会委員) 福本 朋子(栄町廃棄物減量等推進員) 花安 利章(印西市立本埜中学校 校長) 榛沢 宏一(白井市立白井第1小学校 校長) 鳥羽 英之(栄町立布鎌小学校 校長) 川井 大海(イオンリテール(株)千葉ニュータウン店人事総務課 課長) 平林 繁(株平林 代表取締役会長) 計13名
欠席者(委員)氏 名(人数)	藤田 均(白井市廃棄物減量等推進審議会委員) 船越 勝行(日本食研ホールディングス(株)千葉総務部 次長) 計2名
事務局の出席者	印西地区環境整備事業組合(印西クリーンセンター) 小川 和弘(工場長)、土佐 光雄(副参事)、長沼 徳雄(主幹) 岩井 久(副主幹)、大野 喜弘(副主幹) 組合関係市町 伊藤 章(印西市 課長)、金森 隆(白井市 主査)、 大崎 敦(栄町 課長) コンサルタント 株式会社日本環境工学設計事務所(1名)

発言者	内容
次第 1 開会	
事務局	資料の確認
次第 2 委員長挨拶	
次第 3 議事	
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速議事に入りたいと思います。印西地区環境整備事業組合附属機関条例施行規則第2条に従い、大迫委員長に議長をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。</p>
委員長	<p>それでは、まず初めに議事録署名人を指名したいと思います。本日は福本委員と花安委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事を進行させていただきます。次第の3、議題の(1)のアンケート調査結果について、事務局のほうからご説明をよろしくお願いいたします。</p>
事務局	(1) アンケート結果について 説明
委員長	今、事務局から説明がありました、アンケート結果について、ご質問、意見等ありますか。
五十君委員	<p>アンケートの自由記述の部分で、非常に貴重な意見がたくさんありますが、残念だと思うことは、それぞれの記述にどの市町の住民から寄せられた意見なのかがわからないということです。</p> <p>ごみ減量への取り組みは、市町ごとに行っていますから、取り組み方法が違うと思います。これまで、市町ごとにどのような取り組みをしていて、どのような意見があったのかわかるように書いてもらえれば、今後のアクションプランを考える上での判断材料として、とても有意義な物になると思います。</p>
委員長	整理するときには、アンケート結果を見ながら整理していますから、数値の統計上の結果が、市町ごとに傾向は違うかもしれません。しかし今は、そのような傾向までは、整理されていないところがあります。事務局はどのように考えていますか。
事務局	市町ごとに集計することもできますので、再度、関係市町や委員の皆様、市町ごとの結果を報告したいと思います。
委員長	<p>アンケート結果を、市町ごとの結果を出していただければと思います。</p> <p>また、分析している方は集計段階で傾向がわかると思いますので、客観的な見方をして傾向を引き出していただければと思います。自由回答のところは市町ごとの回答者の属性もあると思いますので事務局と調整しながら、その分析結果を見て、具体的なきめ細かい施策も考えられるかと思います。</p>

福本委員	<p>アンケート結果を見ると、個人では「マイバッグの持参や過剰包装を断る」ことが、半数の方が意識されていますが、事業所では「レジ袋有料化等でマイバッグの持参を啓発する」ということに対して、難しいという意見が35.7%ありましたが、イオンなどは、買い物客のほぼ100%マイバッグ持参です。袋が必要な際は2円の手数料を取っていますが、マイバックを持参されなかった方のために、段ボールを取り置きして、「使用してください。」などの対応をしています。</p> <p>袋の有料化は、事業所の経営方針などもあり難しい問題だと思いますが、コンビニなどでは、レジの横に「マイバックを持参して下さい。」などと書かれ、啓発されていますので、マイバッグ持参の啓発が「難しい。」と考えていることに少し驚いています。</p>
委員長	<p>同様の意見を持った方が、いるのではないかと思います。色々な種類の事業者が答えているので、難しいとお答えになっている事業者の方々の特徴というのがあるかもしれません。私も同じように思いました。</p>
花安委員	<p>回答の性別ですが、男性34.7%で女性が65.3%ということで、自分が男ということで考えたときに、男性が多かったら、マイバッグの回答は違う結果になった気がします。私は、マイバッグを持って買い物をした経験はほとんどなく、家内はマイバッグをいつも持って行っていますが、男女の差も出てくるのかなと、このアンケートを見て思いました。</p>
委員長	<p>男性も、買い物などの時は持っていくように、意識させなければと思います。</p> <p>住民アンケートは、3割しか回答いただけていないし、主婦や女性の方、年齢の高い方の回答が多いということもあるため、「回答していない人たちをどうするのか。」と、いう課題はあります。よって、その辺りを加味して、この結果も見ないといけないと思います。</p>
五十君委員	<p>アンケートの回答全体を読んで思ったのですが、「ごみの出し方や、ごみ問題についての情報が少ないので、もっと知らせてほしい。」という声が、多く見受けられたので、周知徹底がされていないのかなという感じがしました。</p> <p>それで思ったのですが、アンケートは、1,900戸の住民に出している。印西地区内の人口（約20万人）全体の約1%の方に送っています。何も見ずに捨ててしまう方も中にはいるかもしれませんが、一度は封を切って中を開けて見る方が大半だと思います。このアンケート自体に現在のごみの問題などを、少しでも書いてあれば、もっとPRになると思います。1%の方に確実にPRできるチャンスは、なかなか無いので、現在の印西地区のごみ処理状況などを周知する良い機会だったと思います。例えば、燃えるごみの中の41%は紙ごみが占めていて、そのうち21.8%は資源化できるものでありますなど、普段は知らされていない情報を受け取ることができ、考える一環となるわけです。そういう情報を入れて、アンケートを実施することにより、より具体的な考えなどを把握できますし、それに対しての対策も打てますので、そういったアンケートのとり方も考えていただくことは出来ないか、お願いしたいと思います。</p>

委員長	<p>次回からということになります、参考にしていければと思います。</p> <p>このアンケート全体を通して、組合や市町が取り組んでいることの認知度が極めて低いと感じます。ガイドブックやごみカレンダーは、身近なことなので認知度は高いですが、ゴミ問題に対して意識の高い人たちの回答にもかかわらず、それ以外のことについての認知度が低いなと思いました。今の意見のように、全体としてアピールしていく、認知度を高めていく意識や姿勢は、今後の様々な取り組みの中で考えていかなければと、アンケート結果を見て思います。</p>
小熊委員	<p>アンケートについては、事前に目をとおしたときに、自分が思っていたとおりの回答でした。特に、「分別の重要性は理解しているが、出し方がわからないから教えてください。」という方が多いのかなと思います。現状で「燃えるごみの中の41%は資源ごみが占めている。」という、結果が示すとおりでと思います。事業者も同じで、わかっているけれど、従業員に説明や指導はできていないと思います。</p> <p>実際に私も4年ぐらい前から出前講座をやっていますが、出前講座に参加された方の意識はどんどん変わってきていると感じます。「聞いて良かった、わかりました。」という意見はよく聞きますので、もちろん全てはわからないと思いますが、市民の方が一番求めているのは、「どのようにしたらいいのか。教えてほしい。指導してほしい。」という、情報が求められていると感じました。</p>
鬼沢委員	<p>この結果を、次の計画等アクションプランに活かして行かないといけないと思います。それから、広報なども今までのやり方とは違う方法を考えていくとか、この結果が全てとは言えませんので、これを生かした計画をこれから皆さんと作っていくことが大切だと思います。</p>
委員長	<p>アンケート結果について、事業者の方は何かありますか。</p>
川井委員	<p>レジ袋の有料化については、私どもの会社は、当たり前のようにやっているのも他の事業所が、「なかなか難しい。」という考えなのには、少しびっくりしています。私どものお店では、来店客の大体80%ぐらいのお客様に、ご協力していただいている状況です。なので、関心としては非常に高いのかなと考えています。このアンケート結果と、先ほど皆さんからのご意見をいただいた中で、「出来る・出来ない。」は、お金のかかる話なので難しいと思います。例えば極端な話ですが、アンケートに半券を付け、半券を市役所まで持って行けば、「印西市の方からエコバックをあげます。」というような方法で、市民がエコバックを手に入れば、通勤帰りのお客様であっても、かばんの中に入れて買い物をするときに広げればいだけなので、そのような方法で少しでも取り組みが増えればいいかなと思いました。</p> <p>また、私どものお店で今一番問題なのは、持ち込みごみがすごく多いことです。店内にごみ箱をたくさん置いているのですが、清掃の担当の人から、「川井さん、持ち込みごみがすごく多く、他の業務に手が回りません。」ということ、良く言われます。実際に、私も朝一番で開店前に店舗の外を見ていると、通勤客の方などが、すごい量の家庭のごみ袋をごみ箱に押し込んでいかれる方が、たくさんいます。それは、捨て方がわからないと</p>

	<p>ということと、週の回収頻度が合っていないというところにも繋がるのかなと思います。今後、そのようなことも整理して、ごみの適正処理につながればと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。収集頻度は、多くすることが、発生抑制につながらないことも考えられますが、通勤する人の何か利便的な部分との関係性等、収集の問題もなかなか難しいところがあります。そのような実態を理解することも大事ですので、貴重なご意見ありがとうございました。</p>
鹿目委員	<p>ごみ処理手数料についてですが、家庭系ごみと事業系ごみについての結果、事業系ごみが「実施すべきではないが 14.8%」です。これに対して家庭ごみのほうは「実施すべきではないは 35.8%」と3倍の差があります。アンケートの結果を見ると、事業系については手数料を取っていますが、事業者は「そんなに高いものではない。」と、感じていると思いました。</p>
委員長	<p>実際に手数料は「幾らまで上げられるのか。」という金額に関して、いろいろと議論はあろうかと思います。</p> <p>一方で、家庭系に関しては、私は意外に賛成派が少なかったと思いました。意識の高い方の回答でも、「明確に実施すべきでない。」と答えた方が、36%ぐらいおられたので、導入するという方向で考えるのであれば、色々と議論をして住民の方々に丁寧に説明して、「それがごみ減量化につながる。」「なぜごみの減量が大切なのか。」ということ、理解していただかないと難しいと思います。一部の意見とか議論だけで決めて導入するというわけにはいかないと思います。きちんとごみ減量化につながり、効果に寄与するような形でやらなくてはならないという回答に、私は感じました。</p> <p>それでは、アンケート調査の結果を整理いただき、もう少し細かく整理いただき、対応いただけるということなので、そのような結果が出たら、また委員の方に報告できるかなと思います。</p> <p>それでは、次の議題にいきたいと思います。基本計画の素案ですが、前半の実績の方は、既にご説明をさせていただいているところが多く、アクションプランのことも、触りのところも既に議論いただいた上で意見を反映させたところですので、一括してご説明をいただきたいと思います。</p> <p>それでは、事務局のほうから説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(2) 印西地区ごみ処理基本計画素案について (全体) 説明</p>
委員長	<p>印西地区ごみ処理基本計画素案について、皆様のご意見の趣旨をどこに反映したということで見ますと、家庭系ごみの減量化、資源化について、「食品ロス対策、分別の徹底、高齢者対策、外国人対策、有料化の検討をしていく、雑紙がみの資源化や、集団回収について。」など。それから、事業系ごみについても、「食品ロス、計画書作成、手数料の見直し、検討のための基礎データ収集、組成分析の実施。」などが反映されています。</p> <p>また、「災害廃棄物、サーマルリサイクル、プラスチックの予測対応などの施設規模との関係の中での議論も整理したこと。」「それから「計画を進捗管理していくための、PDCA的な管理体制の改善。」と、いうところです。</p>

	<p>それからアンケートの結果も踏まえ、「生ごみの削減、分別の徹底、家庭系、事業系のごみ手数料の見直し、検討。」ということと、前計画からの検証からの反映ということで、「事業系ごみの対策。」と、これまでずっと議論してきたことです。あと、「進行管理の改善。」ということで、検討委員の皆さんのご意見を踏まえた反映を試みたところの（素案）です。</p>
鹿目委員	<p>記載確認ですが、最終処分のところ最終処分実績値が、前回の6月10日の実績値と、変わっている理由は何ですか。</p>
事務局	<p>今回の数字が正しい数字です。</p> <p>捉え方の違いがあり、埋め立てというのは、ごみを埋め立てるだけでなく、覆土も入れた量等何種類かいろいろ捉え方がございまして、これは直接、生の埋め立てた量の積み上げでございます。</p>
鹿目委員	<p>飲食店、事業所等での食べ残しゼロ運動等とありますけど、この15.6%というのは何の数字ですか。</p>
事務局	<p>家庭ごみ組成分析結果による、ちゅう芥類の割合です。</p>
鹿目委員	<p>食品ロスを減らす重点施策で、ちゅう芥類の占める割合は60%になっています。組成分析では15.6%ではなかったのでしょうか。</p>
事務局	<p>この数字は、印西地区のものでなく、全国の数字です。</p>
鹿目委員	<p>こんなに異なるのですか。</p>
鬼沢委員	<p>ごみピットの中の組成分析は、乾いた状態の割合です。だから、水分を取って乾いたものになるので、生ごみの割合がすごく少なくなるのですが、ごみステーションに出されているものは、水分が多く含まれているので非常に高い割合になります。</p>
鹿目委員	<p>印西地区の組成分析結果は、収集車からサンプリングするのではなかったのですか。</p>
鬼沢委員	<p>場所によって、「ごみステーションに出されたものをするのか、ごみピットに入ったものをするのか。」になります。法的な組成分析は、乾燥させたものの割合になります。</p>
鹿目委員	<p>ドライとか、そういうベースがあると思いますが、基本的には、この分析結果は収集車からのサンプリングと考えてよろしいのですか。違うのですか。</p>
事務局	<p>印西地区では、事業系だけの組成分析というのが、まだされていないということで、公的な家庭系ごみの乾ベースでの数値を掲載させていただいているというところなんです。</p>
小熊委員	<p>前から思っていたのですが、なぜ乾燥重量の分析をするのか。実際に市民の方や事業者が出しているのは、乾燥していない状態の物を出しているのですが、それが搬送され、計量してピットの中に入ると、乾いた状態での組成分析なのか、そんな単時間で乾くわけがないと思いますが。</p>
鬼沢委員	<p>乾くのではなく、乾かしてから組成分析しています。</p>

<p>小熊委員</p>	<p>ピットの中の物の組成分析をやっても、乾燥していない状態の物と、乾燥している状態の物では取り組み方法が違ってきますから、組成分析の数値が都合のいいように取られ、減量化が進まないのでは無いかと思います。よく乾燥重量という言葉は聞きますが、現状に合った数値を表記した方が良いのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ごみの発生抑制のための数値というのは、もちろん湿潤で考えるわけです。発生抑制の場合でも、どこまで分別できるか、生ごみをどうやってメタン発酵するかなど、入り口側で何か考える場合は湿潤ベースのデータを使っています。乾燥ベースの組成分析データは、燃やすということに関しての目的で使う数値ですので、その辺の使い分けとか目的別というところが、なかなか判りにくいとは思いますが。</p>
<p>鬼沢委員</p>	<p>このドライで割合を出すというのは、昔の厚生省のときに決定したものを、そのまま使用していますので、法定測定となると、乾かした物の組成分析の数値が出てくるのです。</p>
<p>小熊委員</p>	<p>そうですね。この取り組みの中にもありますが問題なのは、生ごみの水分が 80%あるので、10%の水切りは簡単に減量できると思われてしまうことです。現実には減りません。降りかかった水などは、簡単に減らせますが、野菜類が本来持っている水分は、1日置こうが、2日置こうが、天日で干せば別ですが、10%減量することはとても簡単には出来ません。でも、10%という数字だけが一人歩きすると、簡単に減量できると思われてしまいます。</p>
<p>委員長</p>	<p>そういう意味では、ちゅう芥類の占める割合が 60%の数値だったら、水分も含むものとか、何か標記の方法を工夫していただき、全国的にいろいろ変えていかなければならないことだと思います。</p> <p>ごみの場合は、ほかに三成分といって、可燃分と水分と灰分というデータがあり、それ以外に組成があります。組成のカロリー計算するときには乾燥の方が計算しやすいというのが、ごみを焼却する側の使うデータになっているのだと思います。</p>
<p>津島委員</p>	<p>目標設定の項目で、国及び千葉県計画目標値が記載されています。構成市町の計画にも、目標数値を記載して、国の目標値、県の目標値に対して構成市町の目標がどのぐらいの値になっているのか、示していただきたいと思います。</p> <p>各自治体で目標年度が違いますが、印西市は 32 年度の目標値として 377 g/人・日（家庭系ごみ排出原単位（資源物を除く））、白井市が平成 35 年度の目標値として 455 g/人・日、栄町が平成 40 年度で 460 g/人・日となっており、印西地区の 25 年度基本計画の目標は、平成 40 年度で 430 g/人・日です。それらの数値を載せていただきたいと思います。</p> <p>また、参考に視察に行った武蔵野市では平成 36 年度で 367 g/人・日と、高い目標値となっています。印西市の目標値 377 g/人・日、に較べさらに 10 グラム高い目標値となっています。これらの目標に対して現在のごみ減量の進捗状況を把握した上で、今回の基本計画の目標値がどのぐらいの水準なのか把握することが大事ではないかと思いましたが、これらの構成市町などの計画目標値を追加していただきたいと思います。</p>

委員長	もっともな、意見だと思います。印西地区の目標に対しての達成状況を把握した上で、「今回は高い目標を設定したのか、あるいは現実も踏まえた目標を設定したのか。」ということだと思いますが、同じような形で表の中に入れ込むことは出来ますか。
事務局	構成市町別の数値も反映させるということでしょうか。
委員長	この計画は、印西地区全体で設定している目標として取り組むことなのか、それともそれぞれ構成市町の数値を推計して積み上げているわけですから、この計画の取り組みにかかわると思うのですが、構成市町それぞれの目標として取り組むことなのか、それとも印西地区全体の目標として取り組むことなのか、どちらになりますか。
事務局	この計画書は、構成市町それぞれが目標を達成すれば良いのでは無く、構成市町全体が統一目標として取り組むということです。栄町が駄目だったから、印西市がその分頑張るということではなくて、印西地区全体の統一目標ということで、基本計画を策定しています。
委員長	そうすれば、印西地区全体の統一目標として 2033 年度、家庭系ごみの排出原単位が 406 グラム以下とするということが、目標として設定できるわけですね。
事務局	印西地区全体の統一目標で、入れられると思います。
津島委員	ごみの排出量について、基本計画の策定指針でも構成市町との整合性を踏まえた上で策定するというようになっており、前回もそういう問題があったのですが、統一目標で良いのですが、構成市町のそれぞれの目標値も入れて、推定値を出していきますと、大体この数値と整合していますので、構成市町の目標値との関連で理解する上では構成市町の目標値も書いたほうが、理解しやすいのではないかと思います。印西地区全体での統一目標の数値だけで良いということであれば、それでも良いと思います。
事務局	構成市町の個別計画を、基本計画に表記するというのであれば載せたいと思いますが、市町によっては、この計画を作った段階で、市町の計画を変更するといったこともあるかもしれませんので、確認します。
委員長	今まで実績のまま推移したら、数値がこうなるけど、施策の取り組みをしたら、数値が減りますと、いうことを各市町で数値を出して積み上げ、いまの現状の数値が成り立っていると思います。
津島委員	印西市に例えますと、印西市では第二次ごみ減量計画があり、ごみ推進審議会やごみ減量推進会でも計画し、前計画の中間目標値の 377 g は変更せずに設定継続していますので、構成市町の減量目標値は、現在もそのまま目標値として設定されていると思います。
委員長	今回の施策の減量化の効果や、この分析とは関係なく、それぞれ構成市町でやっているのですか。
津島委員	そうです。参考として、構成市町はこういう取り組みをしていることを掲げていれば、「印西地区の目標値に対する現況と、国とどのような連携が取れるか。」などの「取り組みも出来るのではないか。」と思います。

小熊委員	では、実際に構成市町の足並みがそろわなかったらどうするのですか。それで達成した市町があり、達成できなかった市町は、どうなるのですか。
福本委員	栄町ですが、家庭系ごみの排出原単位が 406 g というのは栄町の策定計画の目標値より多いので、全体の統一目標として設定するのは厳しいです。
栄 町	これは、組合の計画ですので、組合としての目標値 406 g/人・日として設定できれば良いと思いました。 市町の個別計画というよりも、構成市町でやっている目標値があるので、それを設定すれば良いのかと思います。参考数値という形もあるかと思いますが、あくまでも構成市町の統一目標値として設定できれば良いと考えています。
福本委員	現状の数値が栄町は高いので、「11 g ずつ減らしましょう。」という取り組みをしているのですが、なかなか目標値に近づかない状況です。
委員長	私は初めて、組合と構成市町の位置づけ、関係性を知ったので、それぞれの目標値や数値的に全部、調整や整合がとれているのかと想像していたものですから。
津島委員	今、達成目標年度は別にして、構成市町の目標荷重平均値との整合は概ね取れていることは確認しています。懸念材料として構成市町の目標を掲げると、個別の構成市町の達成率がどうかというようなことが、いろいろと出てくる可能性もあるので、これまでの基本計画では統一目標値として書かれています。
委員長	計画の中で構成市町の、それぞれの取り組み状況を共有しながら、統一目標を達成できる趣旨がわかるように、構成市町のほうで調整してもいいかもしれません。
事務局	組合としては、構成市町の数値を基本計画の中に表記すると、判りづらくなってしまいます。 構成市町と目標年度も違いますし、数値もそれによって違います。これが、一律に同じ目標年度に向かってという計画になっていけば、わかりやすく比較ができるのですが、構成市町ごとに違う年度で区切ったりしますので、前回と同じく組合としての目標数値で掲げていけたらと考えております。
田沼委員	具体的なアクションプランですが、例えば栄町ではどんな取り組みをする、印西市ではこういう取り組みをするなど、アクションプランは、構成市町ごとに違ってくると思うのですが。
事務局	そういうところも当然あると思います。一緒に取り組むというか同じ項目で出来ることもありますし、アクションプランはここでは最大公約数的に書かせていただいています。 ただ、中には取り組んでいない構成市町もあるため、それは検討するといった表現でまとめているところもあります。その辺は、構成市町の統合した計画になるので、まとめた形の表現にせざるを得ない部分が出てきています。

津島委員	<p>今までは、統一目標値という表現を使って設定しています。それで、前回の基本計画では統一目標値とは別に各市町のデータを参考値として入れていたが、先ほどの事務局の意見で、混乱があるということであれば記載しなくても結構ですが、前回は構成市町の数値も記載しています。それについては、事務局で検討していただきたいと思います。</p>
委員長	<p>実態として何か変わるわけではないが、運用の中では構成市町ごとに独自の取り組みを、それぞれの目標に沿ってやられているものを、統合的な合意の中に近づけていく方向・趣旨は共有されていると思いますから、そういう理解の中で表記については事務局と検討したいと思います。</p>
鬼沢委員	<p>「ごみ減量・資源化の取り組み」という各項の大項目ですが、「資源回収に協力しよう」ということで、白色トレーや牛乳パックの牛乳は紙パックに直した方が良いと思います。資源として回収できる紙類は牛乳パックだけではないので、紙パックで統一した方が良いと思います。</p> <p>それと、事業者のできることに資源物の店頭回収の実施とありますが、事業者はお店だけでは無いので、例えば、各事業者が徹底的に資源を分別して資源化するとかということが入っていた方が良いのではないかと思います。事業者の資源回収が進んでないので、事業者のできることの一番に、資源化の取り組みがある方が良いと思います。</p>
委員長	<p>資源化の取り組みについては、他と重複しても良いと思うので、追加していただきたいと思います。</p>
小熊委員	<p>先ほど少しお話したのですが、生ごみの減量化の10%というのは、達成が困難ではないかと思います。</p> <p>実際に天日で干したり、自分でいろいろ試しましたが、10%の減量は難しいと思います。なので、17%減量目標は達成するのが非常に困難と思います。努力目標ということよりも、ある程度は達成可能な目標で、住民や事業者の協力を得ていかないと、生ごみの減量化は難しいと思います。</p>
委員長	<p>生ごみ減量化の目標値の、どの位であれば達成可能かということですが、今思ったのですが、燃やすごみの原単位 403 g は水分を含んだ原単位ですか。</p>
事務局	<p>そうです</p>
委員長	<p>15.6%は乾ベースの組成ですよ。そこに減量化の水切りで10%減量化は理屈としておかしくないですか。</p> <p>全国どこの自治体でも良いので、湿ベースの組成分析の数値を採用すべきではないですか。目標値が10%になると、今の指摘されたところからさらにハードルが高くなってしまいます。計算式としても改善したほうが良いと思います。</p> <p>ただ、40%にすると、さらに45%にしたら3倍ぐらいになってしまうから、15g減量しなければならないようになると、目標値が厳しいからどうするというようなことです。埼玉県清掃行政研究協議会の数値ですが、何が妥当かということも含め、いろいろ意見があると思いますので難しいところだと思います。</p>

津島委員	<p>ごみの有料化の意見書を出していますが、全国的に約60%~70%の自治体で有料化していることで、それによって減量効果が20%以上の自治体がありますので、ごみの有料化による減量効果が大きいことが伺えます。ごみの減量化施策等で、ごみの減量化が進まず目標値に未達のときには、有料化も検討せざるを得ないと思います。ごみ減量化目標の達成状況を、PDCAでチェックしながら取り組み、有料化について検討して行く必要があると思います。</p> <p>また、有料化を実施する場合には、減量効果による住民の負担の軽減と、直接的な住民負担の増加をよく調査・分析し、減量効果による住民の間接的なメリットのほうが上回るということであれば、間接的には住民負担が軽減されるわけですから、有料化を検討すべきであると思います。前回の計画の進捗状況を見ても、ごみの有料化の調査研究について、ほとんど進んでいない状況ですので、現在の減量目標施策の進捗状況に対する補完的な意味も含めて、ごみの有料化については並行して検討をしておくことが、非常に重要じゃないかと思っております。</p>
委員長	<p>意見書だと、専門部会を作るといった提案もあり、そういうことも踏まえた検討をしていくことというのは、「今回の基本計画の中で重点施策として取り組む必要がある。」と理解しましたが、基本計画の中に書き込むということは、「行政目標として取り組みます。」ということなので、何かしら行動を起こす必要があると思います。</p>
津島委員	<p>なぜ、今こういう意見を言うかといいますと、印西市のごみ減量推進会議で有料化の検討について、18年度から議題には出ていますが、今現在、各構成市町と組合との業務の分担等いろいろあり、「有料化の検討が進んでいない。」ということですので、今回の基本計画の中で「有料化についての施策・検討は進めていく必要がある。」ということ、重点施策として考えるべきだと思います。</p>
大家委員	<p>ごみの有料化は、具体的には、どのようにしてやるのですか。</p> <p>また、条件が整えば有料化を実施しても構わないというアンケート結果が結構多いですが、条件が整うというのは、どういうことですか。</p> <p>その2点、教えていただけますか。</p>
鬼沢委員	<p>先ほどおっしゃっていた武蔵野市では、すごく徹底した有料化をしていて、ごみ袋の値段を高く設定していて、ごみの排出者負担ということです。その負担したお金を、ごみの処理費や収集費に使うわけです。</p>
委員長	<p>ごみ袋を高額に設定し、それを処理費用などに使うということです。</p>
大家委員	<p>わかりましたが、このアンケート結果で、条件が整えば実施しても構わないというのは、どういう意味で答えられているのでしょうか。</p>
委員長	<p>ごみ袋の値段が安ければとか、値段が折り合えばということです。</p>

津島委員	<p>国のごみ処理基本計画策定指針では、市町村が推進する役割として、一番にごみの有料化の検討というのが上がっています。全国の18自治体の実施例を出しており、例えば経済的な弱者の負担軽減を検討している地区もありますし、18地区のいろいろな課題の実施例も上げていますので、そういうことも踏まえて、印西地区ではどうするのかということ、よく検討していただきたいと思います。</p>
委員長	<p>では、有料化についての検討体制をつくってやりますとか、基本計画の中にそのように表記できますか。ただし、構成市町と協議しなければいけないですか。</p>
津島委員	<p>市町と協議していただき、有料化について具体的な施策・取り組みをしないと、また次の基本計画策定時に何も取り組んでいないという結果になると考えられますし、取り組んでいる施策が目標値に達しない場合はどうするのかということにもなりますので、そうしたことも並行して進めておかないといけないと思います。</p>
福本委員	<p>栄町は、既に有料化していますが、有料化した時はごみ袋がすごく高くなり驚きを受け納得できなかったのですが、ごみを減量することにより、ごみ袋代が節約できるとか、資源ごみの袋は可燃・不燃のごみ袋よりも安いので、「よく見ると燃えるごみじゃなくてプラスチックで資源ごみですよ。」という説明をすると、「燃えるごみ袋の中身をきちんと分別すれば、ものすごく少なくなるよね。」と、ごみの分別を前よりもやるようになりました。</p> <p>それに、この緑色の資源ごみの袋は安いし、資源になるということで、分別の必要性などを説明してあげると、相手も理解して分別をするようになります。</p> <p>千葉市は有料化になり、ごみが減ったという実績がありますが、普通の市民はごみ袋が値上がりすると不満や意見を言うてくると思いますが、値上がりした理由を説明していき有料化の必要性を理解してもらうことが、非常に大事なことではないかと思います。</p>
津島委員	<p>今当地区ではごみ処理費が年間20億円かかっていますので、それが2割減りますと、それだけで4億円ぐらい減ります。また、排ガスの削減メリットも大きく環境的にもおおいに取り組むべき課題であるのです。</p>
小熊委員	<p>まず有料化ではなく、ごみ減量化に向けて実施していない施策がたくさんあるわけです。その施策や住民の方から、アンケートで提案がたくさん出ていますので、それらに取り組み、それでも出来ないときは環境を整え、原因者負担で有料化するということだと思います。有料化すれば簡単に、ごみ減量化が出来ると思えない方が良いと思います。ごみの有料化で個別回収するところまでいかないと、ごみ減量化は出来ないと思います。現実にはいろいろな取り組みをして個別回収までやり、ごみの減量化をしているのが実態ですから、袋を高くすればごみが減るとい、そんな簡単なものじゃないと思います。</p>
鬼沢委員	<p>先ほど川井委員の発言にあったように、有料化をするとスーパー、コンビニなどに、ごみを捨てに行く人が増えますよね。</p>

<p>委員長</p>	<p>そのような事例がある市町村はたくさんあります。それが有料化した時の課題の 1 つでもあり、理解してもらうにはどのように意識啓発をして行くか。</p> <p>また、市民と協力しあい信頼関係の中でうまく取り組んでいるところ。最初は減ったけどリバウンドして減量化がなかなか進んでいないところ。あるいは、不法投棄、事業所の現状など、いろいろなことを確認・把握して組合と市町がうまく連携して取り組まないといけないと思います。</p> <p>市町ごとにいろいろな面で違いますので、有料化について取り組み方が違ってくると思います。現状では、各市町と組合の責任の分担とか、進捗管理のあり方などが、うまく機能していないのではないかと思います。有料化の取り組み方として、各市町と組合で協力し統一した方がいいと思います。そのためには、市民や減量化推進員、事業者、行政、組合が一体となって取り組んでいかないと難しいと思います。その、まとめ役を組合がやるといいと思います。</p> <p>有料化の検討していくことに関して、市町と協議を重ね、減量化推進員などに意見を聞くとか、連絡会などを設けて取り組んで行ければ良いかなと思います。</p>
<p>五十君委員</p>	<p>逆行するようなことを言って申し訳ないのですが、ごみの処理の有料化の検討で、家庭ごみのごみ袋の有料化というのは、もう少し考えても良いかなと思います。家庭ごみは、年々少しずつ減っていますので住民の方は努力されていると思います。周知徹底を図って認識度をアップすれば、もっと減ると思います。</p> <p>しかし、事業系ごみについては、いろいろ軋轢があつて難しいのかもしれませんが、以前から減少して無いです。1、2年減っているときはあるのですが、前回は武蔵野クリーンセンターも極端に減っているときがあつて、質問したら、「減少したのは、リーマンショックで世の中全体の消費が落ちただけで、努力したからではなく自然に減少しただけです。」という回答がありました。それを考えると、事業系のごみが減少している年は1回もないのです。そのため、ごみの減量化に対して、事業系ごみの取り組みを強化した方が良いと思います。家庭系ごみよりも、事業系ごみの処理手数料の値上げや、収集の仕方などを考えても良いのではと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>「家庭系ごみは、減量化に対していろいろ取り組んでいます、事業系ごみについては、まだ取り組めることがたくさんある。」ということですが、有料化の検討については、家庭系ごみも事業系ごみも同じ土俵の中で検討せざるを得ないかなと思います。</p> <p>どこの市町もそうですが、有料化がいろいろな施策の最良みたいなことを、よく言われます。先ほどの個別収集のことを言われましたが、いろいろな施策を合わせて一緒に取り組むと、分別も徹底され、有料化のごみ減量化につながるところもあるので、総合的にいろいろ検討しながら、家庭系、事業系に関しても考えると良いと思います。</p> <p>近隣では、千葉市が大変なご努力をされて、有料化に踏み切れたところがあり、家庭系ごみも事業系ごみと一緒に有料化されています。身近な政令市で、踏み込んだ取り組みをされたこともあるので、そういうところも参考にしても良いかなと思います。</p>

鬼沢委員	<p>今と関連しますが、事業系ごみの排出を減らそうというところの事業者ができることに、「細かく資源になるものを分ける。」となっていますが、一番目に事業所の徹底した分別と資源化というのを大項目に入れたほうがいいのではないかと思います。</p> <p>また、コピー用紙やペーパーレス化も取り組みになっていますが、それだけではなく、事業系ごみはペットボトルも缶も紙も一緒に収集されているのが現実が多く、そこは徹底した分別と資源化という取り組みにした方が良くかなと思います。</p>
委員長	<p>ここは、これだけやれば良いのではなく取り組みで、分別の徹底ということを前面に出すということですね。</p>
鹿目委員	<p>今の事業系の適正な分別・処理の推進ですが、事業系の燃やすごみの中の40%ぐらい紙で、半分ぐらいは資源化できるということですが、それを促進するために紙を分別した後、どうされているのですか。例えば、家庭ごみの雑紙類は、決められた日にリサイクル業者が定期的に回り、トイレットペーパーなどをごみ袋の対価として置いておくというシステムといった手法をとっていますよね。それを事業系にも当てはめられないかなと思うのですがどうですか。</p>
小熊委員	<p>それは千葉市がやっていますよね。</p>
鹿目委員	<p>そういうリサイクル業者が家庭系ごみだけではなく、事業系ごみにも入ってもらい行政が、少し協力するというのはどうですか。</p> <p>そうすることにより、家庭系みたいにトイレットペーパーなり何かを対価としてもらい、資源化が促進するのではないかと思います。</p>
鬼沢委員	<p>やり方は多分、いろいろありますが、事業系の紙というのは機密書類が実は多いのです。</p> <p>シュレッダーもありますが、資源として使うためにはかけない方がいいのですが、それでは機密事項が外部に出る心配があるから、場所によってはコンテナを用意したり、やり方はいろいろあるので専門業者が事業所を回って、紙を集めるなどの仕組みを、商工会議所などが中心となつてつくるとか、全国でいろんなやり方をやっています。</p>
五十君委員	<p>先日訪れた武蔵野クリーンセンターでは、1日の排出量が平均10キログラム以下の小規模事業者は、家庭ごみと同じ分別方法で出す場合、家庭のごみよりも、金額の高いごみ袋に入れて出すという方式をとっています。その方法であれば、その都度ごみの分別の指導やチェックもでき、事業者側も、分別についての知識も余裕がなくても回収に来てもらえるところが、すごく助かるという方法です。こちらでも武蔵野市と同じ方式を取り入れてはどうかと思うのですが。</p>
委員長	<p>事業系ごみですが、イオンなどの大手事業所は、個別にいろいろと取り組まれていると思いますが、大手、準大手の事業所等では、商工会議所等の公的な手法があれば、仕組みがつかれると思いますので、商工会議所等へ働きかけていくというのが有効だと思います。</p> <p>しかし、小規模の事業所の分別や出し方は、家庭系ごみと異なり、可燃と不燃だけですから、小規模な事業所は家庭系と同じにして出していると思います。</p>

五十君委員	<p>少し説明不足でした。法定で定められた産業廃棄物のようなものは、持ち込みができませんが、大きな事業者は、そういったことを理解していると思いますので、資源になる物は資源業者に回収してもらい、資源にならない物もきちんと分別して持ち込みをしていると思います。</p> <p>しかし、前回の会議で、大手の事業所はしっかり分別等できているが、小規模の事業所は、そういうことを理解している人があまりいないため、「燃えるごみも燃えないごみも、同じように全て一緒に収運業者に渡している。」ところが多いという、意見がありました。</p> <p>そのようなことを考えると、事業系ごみも家庭ごみと同じように燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみ、資源ごみに分別してもらい、行政側で家庭ごみの合間に収集していく、武蔵野市と同じ方式を考えてもいいのかなと思います。</p>
委員長	<p>事業系ごみの対応で、今回の基本計画の取り組みとしていることは、「発生するごみを減らしてください。」や「できるだけ分別して回せるものは、自分たちの努力で自分たちのルートを確立してください。」というのが趣旨と思いますが、今意見があったのは、事業系ごみを行政が家庭系ごみと同じように回収することだと思います。</p>
五十君委員	<p>アンケートでは、「職員の派遣」や「ノウハウの講習」など、人的な支援や活動に対する補助金の支給など、経済的な支援を望む回答が多くなっていますが、経済的な支援については無理だと思います。しかし、1件1件回って回収すれば、忙しいなか分別などの講習に来る必要もなく、その場でチェックや指導ができ、持ち込む必要も無くなります。そのようなことで、経済的な支援以外のところを行政側が受け持つことで、小規模事業者への支援になるのではないかと考えます。</p>
委員長	<p>事業者への支援ということで、今回の基本計画の中のいろいろな取り組みを、どのように促進していくべきか、今までの大手事業所は計画を立てて提出していましたが、中小事業所に対する意識啓発も含めて、指導をしていかななくてはならないと思います。</p>
事務局	<p>「事業系ごみの排出を減らそう」の施策の中で、委員の意見として「事業系ごみも家庭系ごみと同じように市町や組合が収集する仕組みに変えてはどうか。」ということですが、現状の中では難しいと思います。</p> <p>ただ、計画の中の取り組みは、今まであまり事業者と接する機会もなく、啓発もできていないのが実態であり、前回計画の評価でも、「出来ていない。」ということなので、「今後は少しでも何か取り組みをする。」ということです。ここの計画にあるように、減量計画の作成と言った指導等をしていながら啓発し、研修会等で商工会等関係部署を通じて一緒に連携して行くことも考えています。</p> <p>また、事業者には組成分析に協力してもらい、事業系ごみの実態を把握して、そこから取り組みを考えていくことになると思います。</p> <p>しかし、今回の計画で収集運搬を行政が行うところまで踏み込んでいくのは難しいと思います。事業系ごみに対し、行政として回収に向かうことは難しい部分があると思います。</p>

五十君委員	武蔵野市のように、かなり高めの有料袋を設定したとしても、それは難しいことですか。
事務局	例えば、回収するための費用を負担していただけるのであれば、違うのかもしれませんが、現在事業者からいただいている費用は、ここで処理する処理費用だけになります。 収集運搬をいただいているわけではないです。住民の方から頂いている費用は、収集運搬の手数料ですので、いただいている料金が異なります。
五十君委員	有料袋の中に収集・運搬手数料も込みという考え方は駄目なのでしょうか。
事務局	構成市町との協議・調整が必要になりますので、今回の取り組みとすることは、難しいと思います。
五十君委員	わかりました。
事務局	そのような方向性は必要になってくるかと思しますので、先進市等を勉強して参考にしていきたいと思えます。
委員長	いずれにしても、事業系ごみの排出を減らすことは重点施策となっていますので、事業者とより接点を多く持ち組成分析調査も含めて、いろいろ検討していくということになります。ただ、検討していくうえで行政の関与や有料化等と関連する議論になると思えますので、総合的に見ていかないといけないということで、具体的にいろいろな議論をしていく考えを持っていることは理解しましたので、今の指摘なども受けとめ、今後検討していくということと思えます。
福本委員	学校では、子どもたちに向けて、アルミ缶の回収や、活動中でのキャップの回収等の環境教育を実施しています。子どもたちがアルミ缶などを回収・分別しているのを見て大人が気づくことがあると思うので、そういった学校での環境教育という言葉が、あまり今回計画の中に無かったかなと思っています。
委員長	「ごみについて考える」ところで、行政が環境学習の場を提供といった項目もありますが、学校教育と連携しながらということを加えるのはどうですか。
事務局	印西市では、学校から要請をいただいて、出前講座を行っており、そのような連携は現時点でも実施しています。 しかし、まだまだ手を挙げていただける学校が少ない状況ですので、今後各学校の方に、さらなる啓発は引き続き実施していかなければならないと考えています。やはり、先ほど委員の意見にもありましたが、小さなときから、そのような環境を整えていくというのは、非常に重要な課題であると認識しています。
鬼沢委員	食品ロス削減のことを子どもたちに話すと、ものすごく波及効果が高い結果がデータで出ています。特に3、4年生を対象に実施すると、すごく家庭への波及効果が高いのです。3、4年生は好奇心が旺盛な時期なのかもしれませんが、今日あったことなどを家族に話したがるので、効果が出ます。
事務局	そうですね、中学年ぐらいが、一番家庭内で話をされる機会があると思えます。その後に学校側から意見を聞くと、帰ったら親に話したいとか、一緒にやりたいという意見も、頂戴しているようですので、その辺の年代の方を中心に実施できればと考えています。

委員長	<p>印西市でも進めているような学校と連携した出前講座で、子どもたちに学習する機会を提供し、それを家庭にうまく伝えて、各家庭での食品ロスの取り組みに繋がればいいと思います。</p>
津島委員	<p>プラスチックの容器包装材のサーマルリサイクルのことについてですが、組合の考えとして、サーマルリサイクルはしないとなっています。これについて意見書を出しました。</p> <p>容器包装材のサーマルリサイクルというのは、プラスチックごみを焼却場で燃やしたときの熱エネルギーを発電に利用するということを意味しています。</p> <p>組合では、容器包装材は資源物として回収してリサイクルされていますが、容器包装プラスチックセンターに組合が年間 7,000 万円 の処理手数料を払っています。処理費用を払い、資源物としてリサイクルされていますが、リサイクル製品としては、コンテナの荷台、パレット等非常に制約された分野でしか使われておらず、全体の大体3割弱となっています。それから、次の3割が鉄鋼高炉の還元材やコークス炉で使用され、熱分解してガス化や石油化学の減量のひとつである炭化水素油に分解されて利用されています。残りの3割程度が固形燃料など燃料として使われています。</p> <p>このように資源リサイクルはされているが、パレットに使う再生したプラスチックペレット、高炉ガス、炭化水素油は、ほとんど高炉会社の利益になっており、再生された利益は、当地区には一切還元されていない仕組みになっています。現施設では ボイラーの高温腐食の問題があり、容器包装プラスチックはやむを得ずサーマルリサイクルはしていません。</p> <p>しかし、次期の施設ではボイラーの高温腐食を改め、非常に高圧の蒸気で高効率に発電し、発電した電気を地域に供給するのと、非常時のときの電気の供給基地にしようという計画が次期計画では進められており、プラスチックごみのサーマルリサイクルが可能になります。</p> <p>全国的には東日本大震災を契機に、石油や石炭の資源を節約し、ごみの持つエネルギーを利用するような動きが出ています。次期施設でも、ごみの持つ熱エネルギーを最大限利用して、地域に生かすという方針も打ち出されています。</p> <p>そのようなことを踏まえ、今すぐプラスチックを燃やすということだけでなく、次期施設の稼働時に合わせて10年後にサーマルリサイクルすることによって、ごみの持つエネルギーを発電に回し、少しでも経費の節減に役立てるのが良いのではないかと思います。発電の売電量は大体年間 2,500 万円 といわれており、今のリサイクル処理手数料と高効率発電による売電量を合わせて年間1億円ぐらいの経済的なメリットが生まれるということです。</p> <p>10年後、現在のプラスチックごみの分別処理体制を変えるといろいろ付随して問題も出てくると思われますので、10年かけて徐々に問題を軽減して対策を立て、今すぐサーマルリサイクルをしないという結論ではなくて、「検討を進めていくことにした方が良いのではないか。」と思います。</p>

事務局	<p>ただ、その中でやるとも言っていないので、「国の方向を見て考え、検討・対応します。」となっています。</p> <p>今回の基本計画の中で、規模を決めなくてはならないことになっていきますので思いましたが、計画では災害ごみとして 3,500 t/年を想定しています。しかし災害は常にあるわけではないため、容量に余裕があるわけです。その中で、サーマルリサイクルをやる場合でも、その範囲内で対応ができるようにさせていただいたところです。ですから、やらないということではなく、現状ではなかなかやりますと言えないというのがあります。これから、「分別・減量を推進し取り組んでいきます。」といいながら、「サーマルリサイクルを推進します。」という、またごみの分別をなくす方向になってしまいます。ただ、次期施設は 10 年後の稼働であり、もう一度、この計画の見直す時期はありますので、今回は、先々を見てということですよ。</p>
鬼沢委員	<p>今、国でプラスチック戦略検討会議が始まっており、年度内に一応方針が出ますから、それを見てからで十分だと思います。それと、あくまでもプラスチックを燃やすということは、CO₂ の発生が増えます。また、プラスチックの分別をやめれば当然ごみは増えます。</p>
委員長	<p>今回の基本計画の中の間処理施設の検討で、プラスチック容器包装のことが出ており、中間処理施設の基本計画のときには、156 t/日の施設規模で議論してきましたが、今の現計画も踏まえて、プラスチックごみも入った施設規模としてきました。それが、この 5 年間現基本計画で頑張って進捗してきましたが、ごみ減量がなかなか進まず、その推移の中で次施設規模を考えると、規模を大きくしなくてはならない状況です。</p> <p>だが、世の中の情勢を見たときに、プラスチックごみに関しては、津島委員から意見があったような傾向出てきている一方、鬼沢委員から意見があったようなプラスチック資源戦略の中で、欧州の流れでもあるマテリアルリサイクルを重視すべきだという経済性を重視した仕組みにしていくことで、国では議論が始まっています。そこでの推移を見ながら、災害ごみで余裕を持っている部分もあるので、プラスチックごみの扱いは、次の施設規模算定のときに合わせて、決めていければと思います。</p>
津島委員	<p>事前配布された計画では、サーマルリサイクルによる処理を織り込まずとなっていたものですから、実施しないと私は理解して意見しました。</p> <p>また、今構成市町の財政基盤が非常に苦しいということで、ごみの処理費というのは年間 20 億もかかりますので、いろいろな手法を用いて、処理費を下げるような取り組みを考えないといけないのではと思って意見をしました。</p>
委員長	<p>長い目を見たときに財政に関して、まだ大丈夫と思っても、じわじわと問題が出てきますので、容器包装ごみのリサイクルも費用も高いのでどこまで予算をかけるべきなのか。市民の方々もリサイクルが大事だと理解し協力していますが、費用に関しては有料化など考えないといけないと思います。5 年後にもう 1 回、有料化の議論を進めていくということで、「どれぐらいごみ量が減るのか。」といったことも含め、最終的にはプラスチック問題も検討していただければと思います。</p>

	<p>今回の計画は、いろんな過渡期の中で皆さんが当事者意識を持つための計画だと思いましたが、そういったことで進捗管理も進めていくといいと思います。</p> <p>プラスチックの扱いについては今事務局から説明があったとおりですので、よろしくをお願いします。施設規模は156トン/日ということで、これは前回の次期施設基本計画の時と同じですので、それが現実的な施設規模として考えていければと思います。</p> <p>意見をたくさんいただいたので課題も残りましたが、課題は今後に向けて、どこまで取り組めるかということの指摘が一番多かったので、事務局と私のほうに一任いただき、パブリックコメント素案を出す前のところまでは、私のほうに一任していただければと思うのですが、よろしいですか。</p> <p>例えば、第6章の計画の推進のところ、PDCAのことが何回か出ていたので、取り組みの中で見ていくことで、「本計画の施策の推進状況を管理する体制を構成市町と本組合で確立させ、施策の推進に当たります。」とあります。ここが、有料化等の議論の体制づくり等も検討して行くと思いますし、透明性を持って課題をまとめ、評価結果を公表することも、ここで言っています。</p> <p>また、「住民、事業者、行政等が一体となって、それぞれの役割を明確にして、福祉などの他の分野と統合的な取り組みを推進していく。」ということで、組合や構成市町として進捗を管理・推進し、透明性も高め、住民、事業者の方々と一体となるような工夫も色々していくことと思います。</p> <p>それでは、意見などいただいた内容を、コンサル、構成市町、事務局と正副委員長で修正することで、パブリックコメント（案）という形で次回の会議に出させて頂きたいと思えます。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールなのですが、今日の第5回の検討委員会の後、11月11日に第6回検討委員会です。このときには基本計画（案）の確定と、パブリックコメント（案）についてのことを議題としていく予定です。その間、基本計画（案）、本日ありました意見等をまとめまして、市町の作業部会、及び委員長、副委員長と協議の方をして、委員の方々にメールのほうでお知らせしたいと思えます。また、意見等いただければと思えます。11月11日の第6回の検討委員会を開催しまして、11月15日から12月2日の予定でパブリックコメントのほうを行いたいと思えます。</p> <p>また、第7回を1月20日の検討委員会を開催予定で、このときにパブリックコメントの結果についてと、管理者への答申について報告させていただきたいと思えますが、よろしいですか。</p>
委員長	<p>皆さんから多くの意見をいただいたので、2カ月間で中身の精度を上げた形にします。ここまでつくっていただいて、今日意見をいただいたので良かったかなと思えます。</p> <p>このスケジュールでよろしければ、あと第6回と、パブコメの意見が出た後の第7回ということで、2回の会議ですが、まだ少し時間がありますので、その間もメール等のやりとりの中で、ぜひご意見等いただければと思えます。議題は全て終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。ご協力ありがとうございました。</p>

事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのほか、何か皆様、ございますか。もう一度、確認させていただきますけども、次回の検討委員会、11月11日でございます。パブリックコメントを挟みまして1月20日に第7回検討委員会ということですので、ご予定のほう、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは長時間にわたりご審議ありがとうございました。以上で終了させていただきます。お疲れさまでした。</p>
-----	--